

2009年12月28日

輸入の大幅増は輸出の本格回復を示唆しているのか？

1. 大幅増加に転じた輸入

12月中旬に発表された貿易統計によれば、11月の輸入は前年比26.7%増と前月の同6.4%減から一転、前年比大幅増となった。また輸出も前年比1.2%減と前年比マイナス幅が大きく縮小した。

加工貿易が中心の中国では輸入が輸出に先行する傾向があると言われる。このため11月の輸入の大幅増加を受けて輸出の本格回復への期待が高まっている。実際、中国の輸出入構造を見ると、輸出入とも機械類（一般・電気機械、輸送機械、精密機械の合計）が全体の約5割を占めており、機械類（部品）を輸入し、機械類（製品）を輸出するという加工貿易型の貿易構造が見て取れる（図表1）。

図表1. 中国の輸出入品目別シェアの推移

(%)

	輸出						輸入							
	一次 産品	製造業 品	製造業 品				一次 産品	鉱物	製造業 品					
			化学品	原料別 製品	機械類	雑品			化学品	原料別 製品	機械類	雑品		
05年	6.6	93.3	7.0	31.7	48.6	6.0	15.8	12.0	83.8	13.5	17.6	52.4	0.3	
06年	6.2	93.6	7.2	30.7	49.7	6.0	17.4	14.0	82.4	13.6	16.6	51.9	0.3	
07年	5.3	94.5	7.0	31.4	50.4	5.7	18.6	15.6	81.2	13.0	15.1	52.9	0.3	
08年	4.8	94.9	7.2	30.8	51.3	5.7	20.4	16.9	79.4	12.9	15.1	51.1	0.4	
09年	5.2	94.5	7.7	30.0	51.0	5.8	27.4	23.0	72.1	12.2	13.3	46.4	0.3	
09年11月	5.1	94.7	7.1	25.6	56.4	5.7	23.9	19.8	75.9	12.0	13.6	49.9	0.4	

(注) 2009年は1-11月実績ベース。機械類は一般・電気機械、輸送機械、精密機器の合計。

(出所) CEIC

政府の景気テコ入れ策により著しい回復を見せる投資や消費に加えて、輸出が本格回復に転じるとすれば、中国経済の先行きはかなり明るい。しかし、こうした見方に対してこれを「根拠の乏しい楽観」と警戒する向きもある。そこで本稿では、改めて中国の輸出と輸入の関係に焦点を当て、11月の輸入の大幅増加が意味するところは何が、果たしてここから輸出の本格回復を期待できるのかどうか検討してみた。

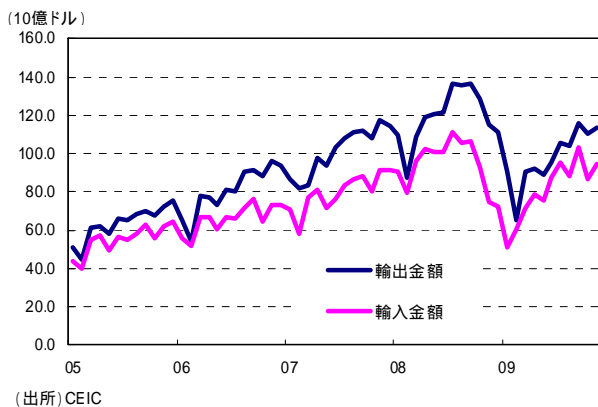
2. 輸入の先行性は必ずしも強くない

まず、輸入の輸出に対する先行性について相関係数¹により確認してみた。次頁図表2，

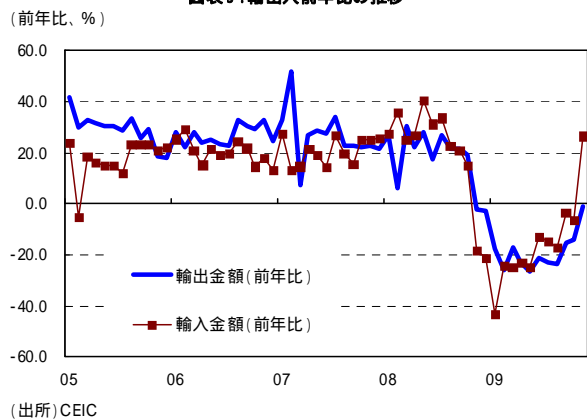
¹ 相関係数 (c): データの相関の程度を表す指標。cの値の範囲は -1 ≤ c ≤ 1 で c = 1 のとき、正の完全相関、c = -1 のとき、負の完全相関、c = 0 のとき、無相関を示す。

3は通関ベースの輸出入金額とその前年比を图示したものである。それぞれについて輸出データを3ヶ月先まで先行させて相関係数を推計してみた結果が図表4である。金額ベースについては輸出を先行させると相関係数が低下してしまう。図表2からもわかるように輸入金額の輸出金額に対する先行性は強いとは言えず、両者はほぼ同時に同じ方向に動いているようである。輸出入金額の前年比については輸出を1ヶ月先行させた場合に相関係数がやや高くなるが、それ以外のケースと有意な差異は認められず、ここからは輸入が輸出に1ヶ月先行するとは言えない。

図表2. 輸出入金額の推移



図表3. 輸出入前年比の推移



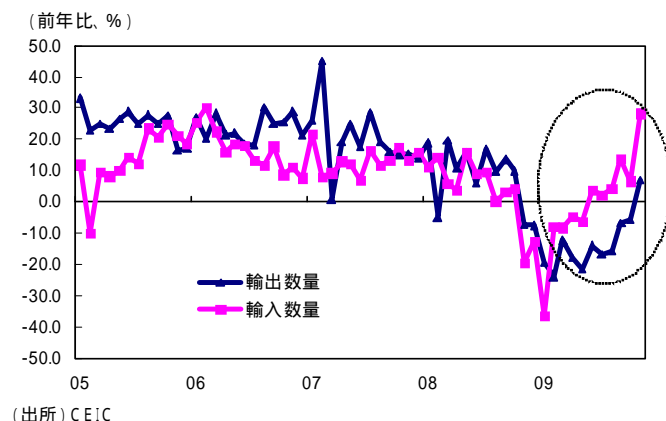
図表4. 輸出金額と輸入金額の相関係数

	輸入金額の輸出金額に対する先行月数			
	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
通関金額ベース	0.933	0.908	0.859	0.840
同前年比ベース	0.792	0.830	0.792	0.774

(出所) CEICデータをもとに推計。推計期間: 2005.01 ~ 2009.11。

次に、輸出入金額から価格の影響を取り除いた数量ベースで同じように相関係数を推計してみた(図表5、6)。相関係数は先行月数とともに高くなっているが、そもそも係数の水準が低く、両者の間に時差相関関係があるとは必ずしも言えない。むしろ図表5では2009年2月以降、連続して輸入数量の伸び率が輸出数量の伸び率を上回っていることが注目される。これは統計が入手できる2005年以降、これまでに見られない特徴である。

図表5. 中国の輸出数量と輸入数量の推移



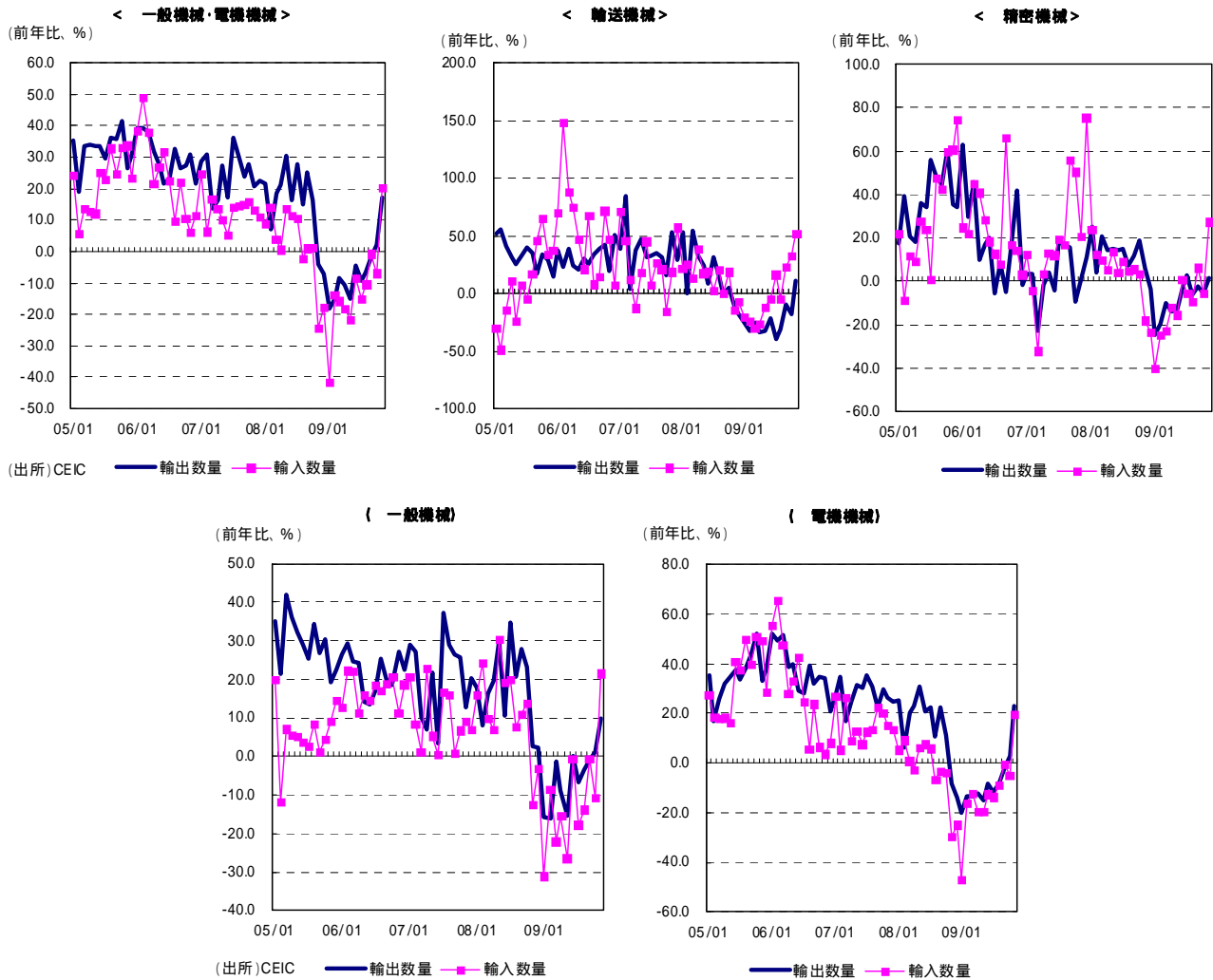
図表6. 輸出数量と輸入数量の相関係数

	輸入数量の輸出数量に対する先行月数			
	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
相関係数	0.619	0.685	0.647	0.688

(出所) CEICデータをもとに推計。推計期間: 2005.01 ~ 2009.11。

さらに輸出入それぞれの約 5 割を占め、加工貿易の主体である機械類について、加工貿易は大分類で見た場合に同じ品目内でのやり取りであるとの仮定のもと、同一品目内で輸出数量と輸入数量の相関関係を見てみた（図表 7、8）。輸送機械、精密機械については輸出数量と輸入数量の相関係数はどの期間でも強いとは言えないが、電気機械については先行月数 0 のケースで比較的強い相関関係が観察された。

図表 7. 機械類の輸出入数量の推移



図表 8. 機械類の輸出数量と輸入数量の相関係数

	輸入数量の輸出数量に対する先行月数			
	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
一般・電機機械類	0.857	0.813	0.813	0.752
一般機械	0.654	0.554	0.561	0.523
電機機械	0.848	0.836	0.840	0.801
輸送機械	0.283	0.337	0.304	0.421
精密機械	0.528	0.579	0.559	0.464

(出所) CEICデータをもとに推計。推計期間: 2005.01 ~ 2009.11.

3. 輸入の大幅増加の一因は政府の内需振興策

以上の相関係数による検証からは輸入の輸出に対する有意な先行性は見出させなかった。では、輸出の伸びと大きく乖離した11月の輸入の大幅増加は何を意味しているのだろうか。

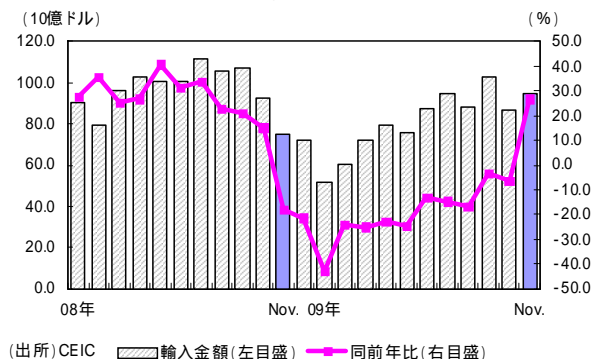
(1) ベース効果

11月の輸入が前年比26.7%増と大幅に増加した一因として、比較対象となる2008年11月の輸入が前年比18.1%減と大幅に落ち込んでおり、前年比伸び率が高く出やすかったというベース効果が指摘できる(図表9)。ちなみに輸出も昨年11月以降、前年比減少に転じているが昨年11月の段階では同2.2%減にとどまっている。

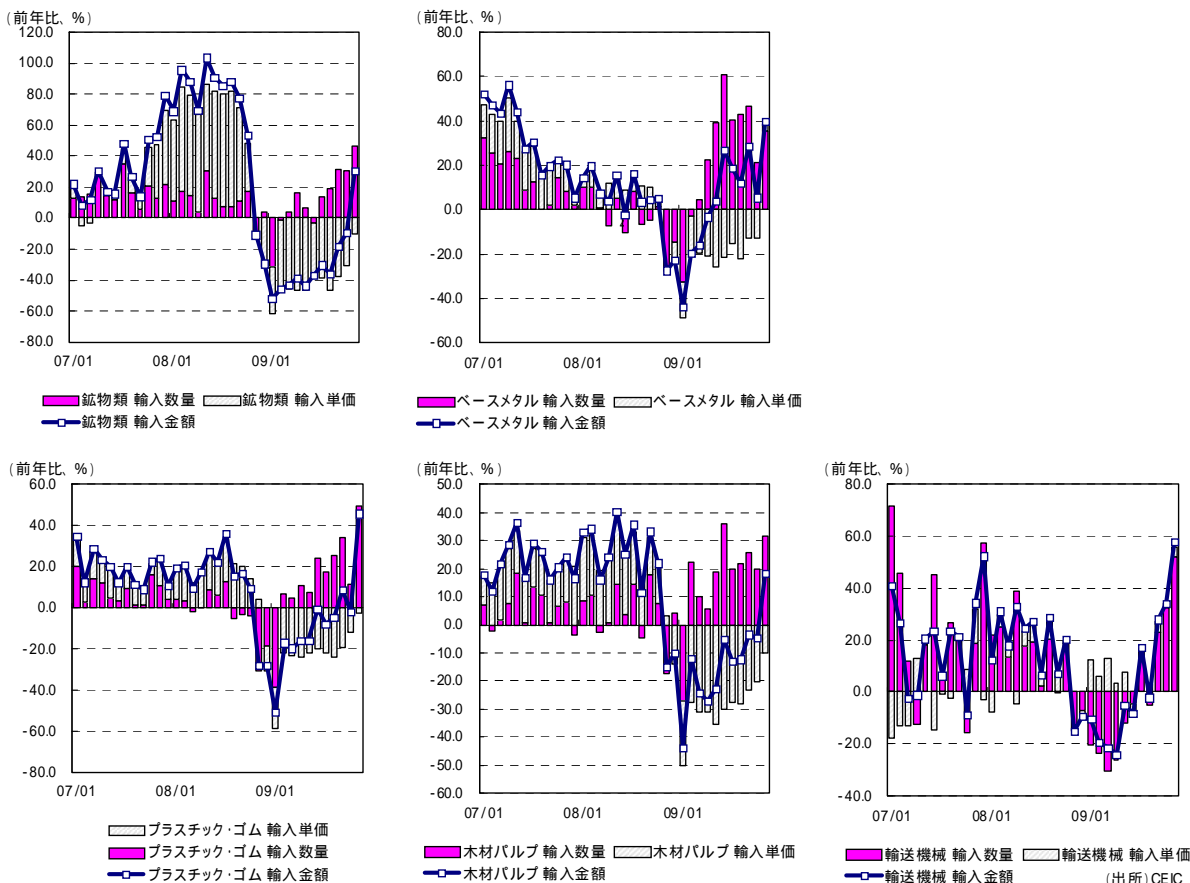
(2) 内需振興策との連動

貿易のHS品目コード別に輸入動向を見ると、足元、輸入数量が大きく伸びている品目は鉱物類、プラスチック・ゴム、木材パルプ、ベースメタル、輸送機械である。これらの輸入数量増加品目のうち鉱物類とベースメタルについては同時に輸入単価の下落が観察され、輸入数量増の背景には単価下落を受けた資源備蓄拡大といった要因があることが伺われる。一方、プラスチック・ゴム、木材パルプについては輸入単価の下落要因もあるが、輸送機械同様、内需振興策による国内消費の拡大が輸入数量増につながっているのではないかと考えられる(図表10)。

図表9. 中国の輸入の推移



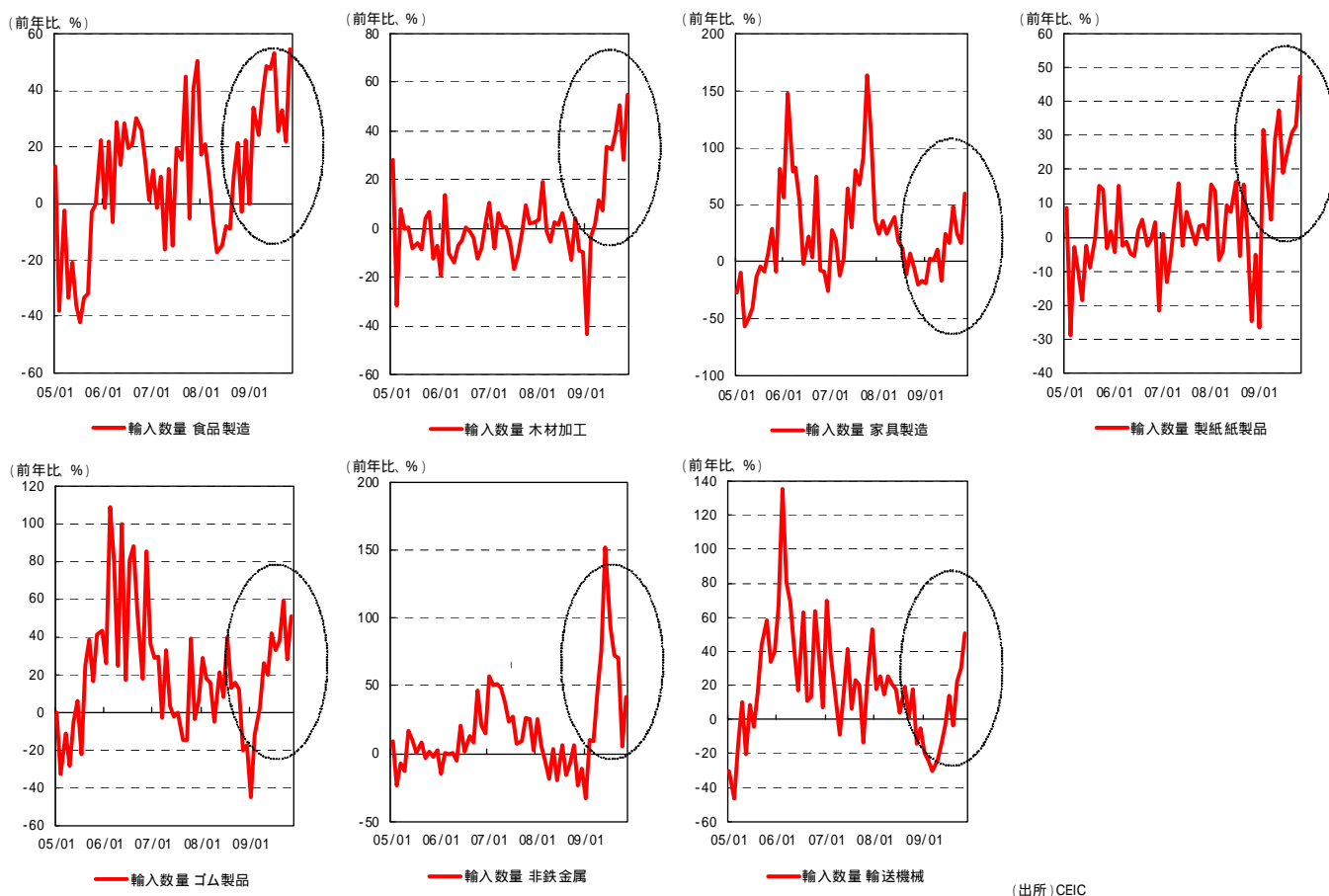
図表10. 品目別輸出数量と単価の推移



さらに産業別に見ると、食品製造、木材加工、家具製造、製紙・紙製品、ゴム製品、非鉄金属、輸送機械の各業種で2009年以降、輸入数量の大幅な伸びが観察される(図表11)。これらは総じて内需との関連が強いと見られる業種である。

中国の内需振興策はインフラ建設が中心であり、当初、海外にはあまり恩恵が及ばないのではないかとの見方もあった。しかし、こう見てくると、輸入の拡大という形で十分に中国の貿易相手国にもメリットをもたらしていると言えそうである。12月初旬の中央経済工作会議では2010年も大枠でこれまでの内需振興策を維持することが確認された。中国の需要に応えられる輸出国は引き続き中国の経済成長の恩恵を享受することになると考えられる。

図表11. 産業別輸入数量の推移

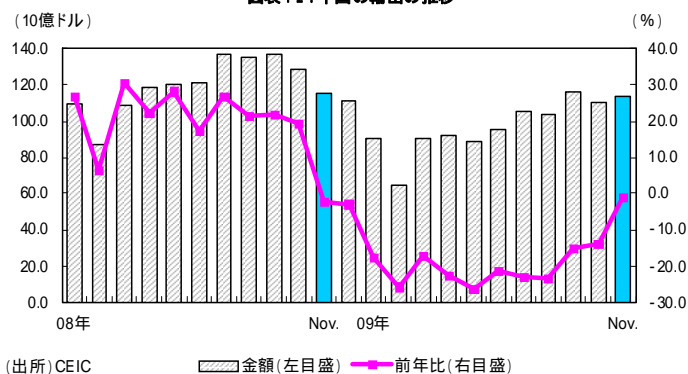


4. 輸出の先行きは依然、厳しい模様

足元の輸入の大幅増加は必ずしも輸出の本格回復を示唆するものではないと言えそうだが、輸入同様、輸出もベース効果からの前年比伸び率自体は今後、プラスに転じよう(図表12)。

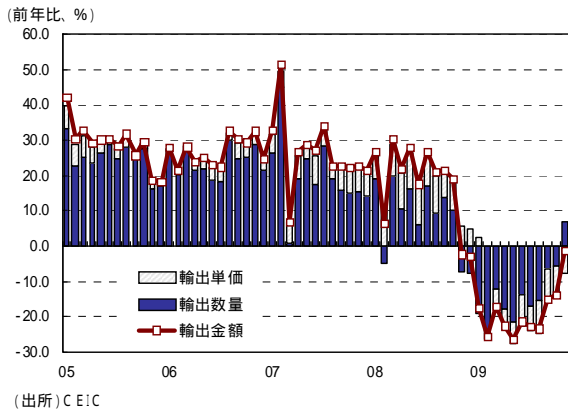
しかし、足元、持ち直し傾向にある輸出もその中身には厳しいものがある。次頁図表13は輸出全体、図表14は輸出

図表12. 中国の輸出の推移

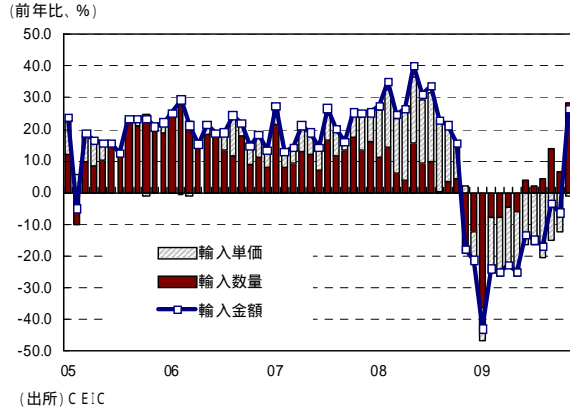


の主力である一般機械と電気機械それぞれの変動要因を数量と単価に分けて示したものが、輸出数量持ち直しの一方でこれまでなかったような輸出単価の大幅な下落が見られる。

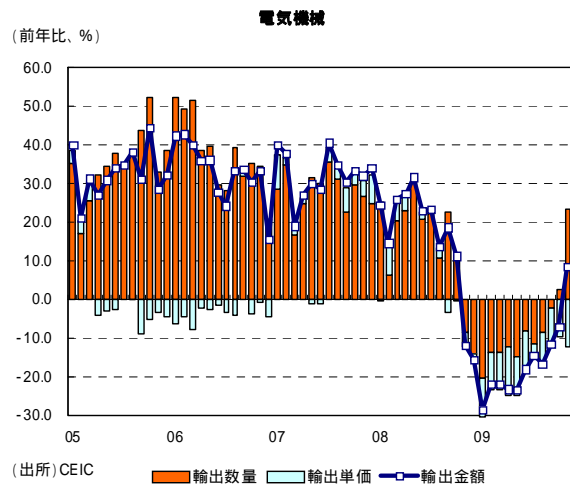
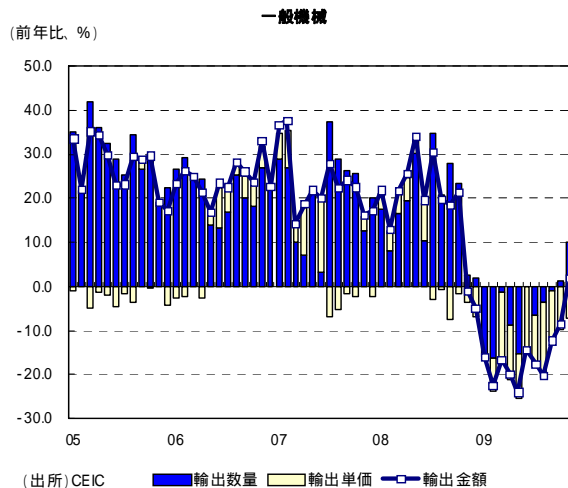
図表13. 輸出金額の変動に対する数量・単価別内訳の推移



(参考) 輸入金額の変動に対する数量・単価別内訳の推移



図表14. 一般機械・電気機械の輸出金額、数量、単価の推移



これは先進国向けの輸出が伸び悩む中で、相対的に所得水準の低い先進国以外に販路を拡大した結果(図表15)だと見られるが、輸出採算的には厳しい状況と言えよう。こう見てくると、中国の輸出の本格回復にはやはり先進国景気の回復が欠かせないと考えられ、それまでにはもう少し時間がかかりそうである。

図表15. 機械類輸出の仕向け先別シェア(金額ベース)

	一般機械				電気機械			
	EU	日本	米国	その他	EU	日本	米国	その他
05年	25.3	9.3	24.2	41.2	17.6	8.2	21.2	53.0
06年	24.1	8.0	24.8	43.0	17.1	7.0	20.3	55.5
07年	25.7	7.5	22.7	44.1	19.1	6.4	18.7	55.9
08年	25.5	7.4	20.5	46.6	19.1	6.4	17.1	57.4
09年	23.2	7.2	22.7	46.9	18.1	6.1	17.2	58.6
09年11月	24.8	5.9	22.4	46.9	18.8	6.1	16.5	58.7

(注) 09年は1-11月実績ベース。

(出所) CEIC

以上

調査部 野田麻里子

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性を保証するものではありません。また執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一的な見解ではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されております。一部を引用する際は必ず出所（弊社名、レポート名等）を明記して下さい。全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、弊社までご連絡下さい。